

# 職員研修だより

濱田先生:教科書をゴールではなく、全員が共有しているスタートにしていくと良いと思いました。  
木内先生:グループの構成や立歩きで聞きに行く活動が孤立化を生んでないか、時折チェックすると良いと思いました。

中央中等教育学校  
授業研究・FEWC推進部  
学年研修① 第1号  
令和元年5月24日(木)発行

学年別グループ協議で出た意見をまとめたものです。



## 1年1組「国語」堀越守先生

- 教師の「詩が変わっていて、変なところがない？」の一言で変わっているところを見つけようと、生徒の話し合いが進んでいった。
- Aくんは、グループになることで、挙手よりも発言しやすい様子が見られた。
- あたたかく意見を出しやすい雰囲気づくりがなされていて、普段の学級経営の大切さを感じた。
- 情景や気持ちを想像するという課題に対し、文章表現に注目しながら考えられていた。多様な意見を出しやすい問いがあり、課題設定の工夫が見られた。



## 2年2組「英語B」J.バドリック先生

- Aくんは、声は小さいけれど、発表できていた。能力はあるが、自己表現は難しい様子である。部活動では、先輩とよく話している。
- 他教科の授業から多くの学ぶべき点を見つけたことができた。生徒の違った一面を見ることができた。
- 授業が早いテンポで行われていて、次から次へと出される課題(活動)によく対応していた。次の活動をホワイトボードに書くことで、生徒に活動の見通しをもたせることができていた点が参考になった。
- 心配に感じていたBくんが、指示どおりによく動く姿が見られた。



## 3年4組「国語」鈴木久美子先生

- Aさんは、学力の面では気になる生徒であるが、考えようと動きだすのは早かった。社会でも頑張ろうとしている姿勢がある。英語は指示を聞きに来る。合唱では戦力になる。理科では、意見を出している。
- Bくんを中心に、班での話し合いに過去のノートや資料をうまく使っていた。
- Cくんはグループで浮きそうであるが、Dくんがおさえながら、うまく活動が進んでいた。
- グループで考える際に、Eさんの反応の良さが、答えの道筋に近づく契機になっていた。



## 4年1・2組「数学Ⅱ」森山浩司先生

- 移動して聞きながら解いている生徒もいたが、一人で解いている生徒もいて、一人で解いている生徒は大丈夫なのかもしれないが、協働という点では少し気になる。
- 理解したことをアウトプットするタイミングがないと、どこまで理解しているかを、いかに自分で意識させればよいのか。
- Aさんが先生に質問していたので、他の生徒にも、そこでわかったことを広げられるとよいのではないのか。
- 一人でやることも尊重されていて、自分のペースでできていた。
- 活動させる形態、意図を明確にする等、協働活動の効果的な取り組み方を学んだ。



## 5年2組「コミュニケーション英語Ⅱ」

吉澤直子先生

- どの生徒も気を緩めることなく、コミュニケーションをとろうとする姿勢がある。
- 全員が見える配置(U字型)のため、効果的で生き生きとしている表情が見られた。
- 他のほとんどの授業で眠りこけて有名なAくんが、終始起きていて、元気よく参加していた。
- 学力に課題のあるBさんは、伝えようとする努力が見てとれた。
- 用意された問題だけでなく、生徒同士の素朴な疑問から全体共有し、内容についての深まりが見られた場面が印象的であった。
- ペアでわからないことを言ってつながることも大事だと感じた。



## 6年4組「数学探究」松村康史先生

- 学び合いに入っていない生徒の理解度はどう測るのか。グループ化することで、埋もれてしまう生徒の対応はどうすべきか。いかにケアしていくか。
- Aくんはほとんど会話をせず、写してただいたため、わからないまま授業が終わってしまったのだろうか。
- 生徒を見ること自体が難しい。
- わからないときに、仲の良い子だけでなく、誰にでも聞けるように自ら動く生徒にしたい。いかに全員に学びを深めるか。できるようにするか。
- BさんとCさんは、互いのコミュニケーションの中で思考が深まり、理解へとつながり、ハイタッチをする場面が見られた。

※次回のSUS研修は、6月3日(月)です。よろしくお願いいたします。

